

令和3年度

ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん等） ワクチン予防接種について

厚生労働省は、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が特異的に見られたことから、副反応の発生頻度等がより明らかになり、適切な情報提供ができるまでの間、積極的な接種勧奨を控えております。野田市は安全性を最優先し、予防接種の積極的勧奨を見合わせています。

▲接種を希望される場合は、事前に保健センターへの申請が必要です

▲接種に当たっては必ず保護者の同伴及び同意書の記入が必要です

◆接種年齢：小学6年生～高校1年生の年齢相当の女子【中学1年生が標準接種年齢】
(平成17年4月2日～平成22年4月1日生まれの女子)

◆接種方法 ※ワクチンは2種類あります。使用するワクチンによって接種間隔が異なります。

		ワクチン名	
		サーバリックス	ガーダシル
		HPVの16型、18型の2つの型に対して感染予防効果を持つワクチン	HPVの16型、18型の2つの型に加えて、尖圭コンジローマの原因となる6型、11型に対して感染予防効果を持つワクチン
接種回数	1回目	初回	初回
	2回目	1か月後(初回から)	2か月後(初回から)
	3回目	6か月後(初回から)	6か月後(初回から)

※1つのワクチン接種後に、別のワクチンを接種した場合は公費の対象になりません。同じワクチンを3回続けて接種してください。

※3回同じワクチンを接種することで予防効果が得られると言われております。別のワクチンを接種した場合の安全性や免疫原性、有効性のデータはないとされています。

※サーバリックスは、上記の方法をとることができない場合は、1か月以上の間隔をおいて2回接種後、1回目の接種から5か月以上、かつ2回目の接種から2か月半以上の間隔をおいて接種すること。

※ガーダシルは、上記の方法をとることができない場合は、1か月以上の間隔をおいて2回接種後、2回目の接種から3か月以上の間隔をおいて接種すること。

◆接種場所：市内指定医療機関

◆持ち物：母子健康手帳・体温計・筆記用具・健康保険証

予診票・同意書・申請書の写し（保健センターでお渡ししたもの）

※申請書の写しは、申請後初めて医療機関を受診する際に提出してください。

◆費用：無料

※野田市外に住民票をうつした場合、野田市の予診票を使って接種することはできませんので、必ず転出先の市区町村でご確認ください。

☆接種の前に、この説明書をよくお読みください。

☆予診票に記入もれがあると接種できない場合があります。責任をもって記入してください。ボールペン等、消えない筆記用具で記入してください。

☆病気で治療中や何らかの薬を飲んでいる場合は主治医に相談してから受けるようにしましょう。

☆予防接種は体調のよいときにお受けになり、お子様の体調がよくわかる保護者の方がお連れください。

☆接種後は、母子健康手帳の予防接種記入欄を再度、ご確認ください。

★ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん等)とは★

【子宮頸がん】 サーバリックス・ガーダシルが感染予防効果を持っています

子宮頸がんは近年20代～30代で増加しており、妊娠・出産に影響のある若い女性に発症しています。高リスク型のヒトパピローマウイルス(子宮頸がんの原因として最も多いと言われる発がん性のヒトパピローマウイルスは16型、18型)が持続感染し、数年～十数年ののち前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症すると考えられています。性交経験のある女性であれば誰でも感染する可能性はあります。

ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん等)予防接種は子宮頸がんの原因として最も多いと言われる発がん性ヒトパピローマウイルス16型、18型の感染を防ぐワクチンとされています。しかし、ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん等)予防接種をしても感染を全て防ぐことはできません。20歳になったら子宮がん検診を受けましょう。

【尖圭コンジローマ】ガーダシルが感染予防効果を持っています

尖圭コンジローマは低リスク型のヒトパピローマウイルス(非発がん性)の性感染症です。生殖器に良性のイボができます。原因となるヒトパピローマウイルスは6型、11型が90%以上を占めます。高頻度に再発するため、繰り返し治療が必要になってきます。

★ こんなときは受けられません ★

- ① 発熱しているとき。(接種会場で体温が37.5℃以上ある場合)
※平熱の高い人は主治医に相談を。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合。
- ③ このワクチンの成分に対して過敏症を呈したことがある場合。
- ④ 以下の病気にかかった場合

麻疹(はしか)	治癒後4週間程度あける
風疹(三日はしか)・水痘(水ぼうそう)・おたふくかぜ等	治癒後2～4週間程度あける
突発性発疹・手足口病・溶連菌感染症・伝染性紅斑(りんご病)等	治癒後1～2週間程度あける

(いずれの場合も医師の診察で予防接種の適否が判断されます。)

- ⑤ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と認めた場合。

★ こんなときは受ける際に注意が必要です ★

- ① 心臓病・腎臓病・肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けている場合。
- ② これまで予防接種で、接種後2日以内に発熱がみられた場合。
- ③ 過去にけいれんを起こしたことがある場合。※必ず、事前に主治医と相談しましょう。
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる場合。
- ⑤ 血小板減少症や凝固障がい有する場合。
- ⑥ 妊娠している方、または妊娠している可能性がある場合。
- ⑦ ラテックス過敏症がある場合。(天然ゴムの製品に対する即時型の過敏症で、ラテックス製の手袋を使用した時にアレルギー反応がみられた場合に疑います。また、ラテックスと交叉反応のあるバナナ、栗などにアレルギーがある場合には主治医とご相談ください)

★ 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副作用により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

裏面に続く

ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん等）ワクチンの副反応について

主な副反応としては、発熱や局所反応（疼痛、発赤、腫脹）などです。また、接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神が現れることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は背もたれのある椅子等に座り様子をみるようにしてください。

【一定の頻度で発生する副反応について】

発生頻度	サーバリックス	ガーダシル
50%以上	疼痛・発赤・腫脹、疲労感	疼痛
10～50%以上	掻痒、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	腫脹、紅斑
1～10%未満	蕁麻疹、めまい、発熱など	掻痒、出血、不快感、頭痛、発熱
1%未満	注射部の知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	硬結、四肢痛、筋骨格硬着、腹痛、下痢
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	疲労、倦怠感、失神、筋痛、関節痛、嘔吐など

また、重篤な副反応として、予防接種を受けた後に痙攣や歩行障がい、四肢に力が入らなくなるギラン・バレー症候群などの重い健康被害が報告されており、厚生労働省は、平成25年6月14日に専門部会を開き、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が特異的に見られたことから、副反応の発生頻度等がより明らかになり、適切な情報提供ができるまでの間、接種を積極的に勧奨すべきではないとしています。

▼以下の症状が疑われる場合は、速やかに医師に申し出てください。

【重篤な副反応の症状と頻度】 ※平成26年3月末時点

アナフィラキシー	ショック症状、じんましん、呼吸困難など	10万接種に0.1件
ギラン・バレー症候群	四肢末端から始まるまひ	10万接種に0.06回
急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	まひ、知覚障がい、運動障がい など	10万接種に0.04回
疼痛又は運動障害	広範囲な疼痛または運動障がいを中心とする多様な症状(※)	10万接種に2件

(※) 多様な症状とは具体的には失神、頭痛、腹痛、発汗、睡眠障がい、月経不正、学習意欲の低下、計算障がい、記憶障がい等である。

※予防接種の有効性・副反応（リスク）については、厚生労働省のリーフレットもご参照ください。

<問合せ先> 保健センター ☎04-7125-1188
 関宿保健センター ☎04-7198-5011

【 予防接種の対象となっている小学校6年生～高校1年生に相当する年齢のお子様をお持ちの保護者の方へ 】

保護者の方へ：必ずお読みください

予診票に署名するに当たっては、接種させることを判断する際に、疑問等があれば、あらかじめ、かかりつけ医や保健所、お住いの市町村の予防接種担当課に確認して、十分納得したうえで、接種させることを決めてからにしてください。

1 ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の症状について

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微小なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のもは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因になることが分かっています。

2 予防接種の効果と副反応について

ワクチン中には、いくつかの種類ヒトパピローマウイルス（HPV）のウイルス成分が含まれており、予防接種を受けたお子様は、これらに対する免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、HPVにかかることを防ぐことができます。

ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀にですが、重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

ヒトパピローマウイルスワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱や、局所反応（疼痛、発赤、腫脹）です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）等が報告されています。

3 予防接種による健康被害救済制度について

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、お住いの市区町村の予防接種担当課へご相談ください。

4 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

なお、現在、妊娠している方は、接種することに注意が必要な方ですので、かかりつけ医とよくご相談ください。

○ 保護者の方へ：下記事項をよくお読みください

上記の内容をよく読み、十分理解し、納得された上でお子様に接種することを決めてください。接種させることを決定した場合は、予診票の「保護者の自筆署名」の欄と別紙「同意書の署名」欄に自筆による署名及び必要事項を記入してください。

（署名がなければ予防接種は受けられません）

接種を希望しない場合には、「保護者の自筆署名」の所には何も記載しないでください。